

焼津・小川漁港 昨年11月から「駿河湾深層水」使い

アワビ陸上養殖スタート

来冬、インターネット販売目指す



駿河湾深層水でアワビが飼育されている船用コンテナ内の水槽

焼津市石津の小川漁港で「駿河湾深層水」

を使ったアワビの陸上養殖が始まっている。県の技術協力を受け、燃料会社が昨年11月から乗り出し、最初の2年間は年に約4万個のアワビを育てる計画だ。成長したアワビの商品名を「深層水そだち」と命名し、来冬には通常の養殖アワビの半値以下でのインターネット販売を目指している。

アワビの陸上養殖に取り組んでいるのは「シナネン」（東京都港区）。深層水は細菌が少ないためアワビが病気になることがない。また、水温を低く保てる特徴があるため、施設の管理費を通常の半分以下に抑えられるという。

天然アワビの漁獲量は減少傾向にあるため、養殖が各地で進んでいるが、水温管理などのコストを抑え、販売価

格をいかに下げるかが課題だった。

水槽は奥行き12メートルの船用冷凍コンテナ内に設置。1コンテナに年間5000個の養殖能力がある水槽を2個設けた。水温と室温の管理も家庭用エアコンででき、光熱費は通常の3分の1の1コンテナあたり年間約20万円という。

同社は、県水産技術研究所から飼育方法のアドバイスを受けながら1年間、事業化に向けて準備を進めてきた。県側にも「駿河湾深層水」を全国に広められるメリットがあるという。

稚貝は岩手県大船渡市と松山市で人工養殖され、大きさは約5センチ。1年で出荷が可能なら8センチまで成長するという。【望月和美】